



主催
奈良文化財研究所



共催
大阪歴史博物館

基調講演

「聖武天皇の希望、苦悩、救い」

栄原永遠男

(大阪歴史博物館名誉館長)

パネルディスカッション

「聖武天皇の宮跡、
調査研究の最前線」

パネラー

馬場 基 (奈良文化財研究所)
佐藤 隆 (大阪市教育局委員会)
小谷 徳彦 (甲賀市教育局委員会)
桐井 理揮 (京都府教育庁)

司会

神野 恵 (奈良文化財研究所)

日時

令和6年10月27日(日)

12:00 開場 13:00 開始 16:30 終了予定

場所

大阪歴史博物館 講堂

【参加費：500円】

聖武天皇の大嘗祭関連の木簡

聖武天皇の宮

平城宮、恭仁宮、紫香樂宮、そして難波宮

聖武天皇即位一三〇〇年記念 特別講演会

定員250名
申込先着順

【問い合わせ】

奈良文化財研究所 研究支援推進部 総務課 広報企画係 Tel 0742-30-6753

【お申し込み方法】

メールまたはFAXにて申込み受付 **「特別講演会希望」**と明記ください。

*参加の可否を回答いたしますのでFAXの場合は、FAX番号をご記入ください。

*メール1送信につき、お一人様のお申し込みをお願いいたします。発信元は同じでも可。

受付開始は令和6年9月30日から **先着順**。

Email:kouenkai_nabunken@nich.go.jp FAX:0742-30-6750

2024年初春、平城京の発掘調査で奈良時代の大嘗祭に関連する木簡が出土しました。
神亀元年(724)の年紀をもつことから、聖武天皇の大嘗祭に関連するとみられます。
今年は聖武天皇の即位から、ちょうど1300年。この秋、奈良文化財研究所の平城宮跡資料館で、
聖武天皇の時代を考える秋期特別展「聖武天皇が即位したとき。」を開催します。
爛熟した天平文化が花開いた聖武朝。しかし、その治世は必ずしも平穏ではありませんでした。
聖武天皇即位後は地震や疫病、政変とさまざまな災異に悩まされました。
この講演会では、聖武天皇が平城宮を離れ、恭仁宮、紫香楽宮、そして難波宮へと宮殿を遷す
時期を取り上げます。これらの宮跡は、いずれも国史跡に指定され、継続的な調査が行なわれ、
聖武朝を再評価する研究も数多く発表されています。
度重なる困難を乗り越えた聖武天皇の治世は、現代の私たちにも多くのことを語りかけてきます。
聖武天皇が残した遺跡、遺物を通して、私たちは何を学び、何を感じるのか？そして、どのように
この遺産を後世に伝えていくのかを、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

基調講演者紹介

栄原 永遠男

大阪市立大学名誉教授、大阪歴史博物館名誉館長、東大寺史研究所長。
奈良時代の流通史、古代貨銭に関する研究をはじめ、正倉院文書や万葉集
など、日本の古代史研究をリードしてきた。紫香楽宮の調査研究を長らく
指導され、聖武天皇やその宮に関する著書も多く執筆している。

パネラー紹介

馬場 基

奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長。昨年度の大嘗祭木簡出土時の
発掘調査の担当室長。専門は日本古代史、木簡の研究。

佐藤 隆

大阪市教育委員会。長らく難波宮などの調査・研究に従事。専門は考古
学で、難波宮や古代の土器をテーマとした研究をおこなっている。

小谷 徳彦

甲賀市教育委員会。紫香楽宮関連遺跡の調査研究を担当してきた。専門は
考古学、紫香楽宮や古代の瓦に関する研究をおこなっている。

桐井 理揮

京都府教育庁。恭仁宮の調査・研究を担当してきた。専門は考古学、現在
は恭仁宮から出土した奈良時代の土器に関する研究をおこなっている。

司 会

神野 恵

奈良文化財研究所展示公開活用研究室長。専門は考古学。専門は平城京
から出土した土器・陶磁器の研究。

● 大阪歴史博物館へのアクセス



【電車でお越しの方】

Osaka Metro 谷町線
「谷町四丁目」駅 2号出口
または
Osaka Metro 中央線
「谷町四丁目」駅 9号出口

【バスでお越しの方】

大阪シティバス「馬場町」
バス停前

奈良文化財研究所「平城宮跡資料館」にて開催

令和6年度
平城宮跡資料館
秋期特別展

聖武天皇が
即位したとき。
―聖武天皇即位一三〇〇年記念―

2024
10/22日 ▶ 12/8日